

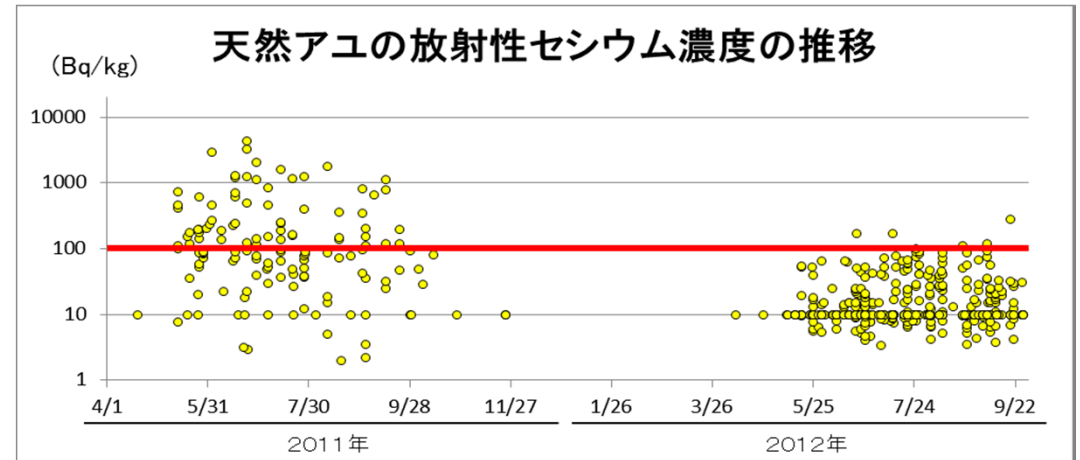
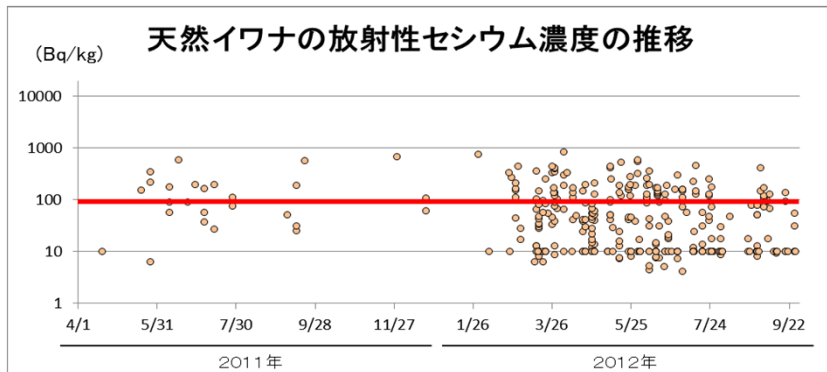
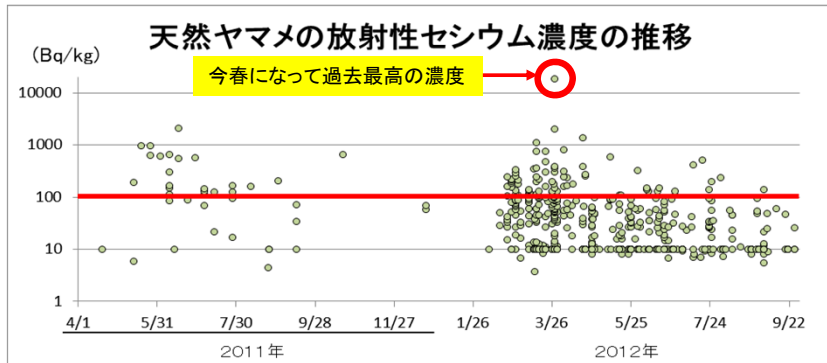
高濃度に放射性セシウムで汚染された魚類の汚染源・汚染経路の解明のための緊急調査研究

- ②高濃度に放射性セシウムで汚染された内水面魚類の汚染源・汚染経路の解明 -

配分予定額 0.6億円

○東北及び北関東の内水面漁業においては、イワナ、ヤマメ等の放射性セシウム濃度が予想に反して低下せず、出荷制限が続いており、遊漁もできない状態。

→ 地域内水面漁業の存続や、観光業等にも関わる問題



淡水魚の汚染源及び汚染経路を解明して、内水面漁業の振興に寄与。

実施機関：農林水産省（農林水産技術会議事務局、水産庁）、栃木県、（独）水産総合研究センター、（独）森林総合研究所、東京大学大学院農学生命科学研究科

主な実施内容

Q.現在汚染されている魚の汚染源は？

自然環境下でヤマメ等を飼育してどの程度の汚染が生じるかを確認

耳石を分析して汚染開始時期と被汚染期間を解明

継続的汚染なし：
主として過去に蓄積されたCsが原因

継続的汚染あり：
Q 汚染源は、餌、水、底質？

餌、水、底質の調査による汚染源の特定

対策への活用例

・アユの例を参考に汚染魚を全量取り上げた後、遺伝的多様性に配慮し、現場の親魚由来の種苗を放流

・汚染源の継続的なモニタリングによる、より合理的な出荷制限の設定（解除）に寄与

○一方、年魚であるアユでは、今春以降、放射性セシウム濃度が劇的に低下し、基準値越えはほとんど無い状況。

→「魚の世代が替われば汚染が低下するのではないか」との仮説を検証。